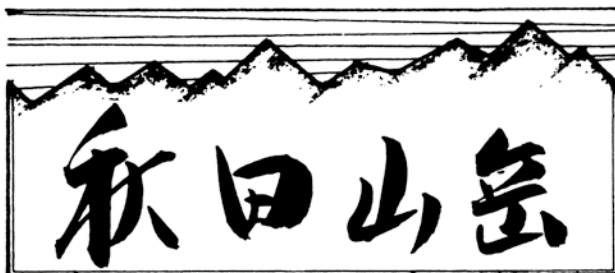


2020



J・A・C



令和2年8月 発行

No. 116

社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野  
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋田支部

編集 鈴木裕子

## 令和2年度の通常総会中止

### 令和二年度 第一回役員会を開催

令和二年度第一回役員会を四月七日午後一時から秋田市泉コミセン会議室において開催。

新型コロナウイルス感染拡大阻止のため、総会を中止としたことから、役員会を開催し、平成三十一年度(令和元年度)の事業報告、決算と、令和二年度の事業案、予算案について審議した。

初めに、支部長からこの度のコロナウイルス感染拡大阻止のため、総会が中止になったことは大変残念です。一日も早い終息宣言があることを願っています。昨年の支部設立六十周年の行事は、会員皆様のご協力により無事に終えたことを感謝申し上げます。秋田支部の現在の課題は、会員の減少と高齢化、支部行事への参加者の固定化です。背伸びせず、身の丈にあった支部運営を行ってゆきたいと思っております。ご協力をお願いいたしますとの挨拶があった。

役員会は、事務局が提案した案件を委員の皆様と審議していただくことから、総会と同様に議長を三浦眞六委員をお願いした。

案件一 平成三十一年度(令和元年度)の事業について鎌田事務局長報告。設立六十周年記念事業の太平山集中登山、鶴の湯温泉での記念祝賀会と大白森山への記念山行、六十座ラリー、明田富士山の桜の標柱建替等。春秋の支部北行、全国支部懇談会や東北・北海道地区集会への参加。山の日に東通明田子供会の明田富士山登山に参加した

こと。公益的事業として太平山山開きに協力、山の環境整備県民事業の馬場目岳避難小屋塗装に参加。また、赤倉岳から馬場目岳分岐までの登山道刈り払いに協力。会報発行は五回、支部だよりは六回発行。

案件二 平成三十一年度(令和元年度)の決算報告を石川会計担当が報告。令和二年四月一日午前十時から秋田市アルヴェ市民交流室において、柴田、大橋両監事により行われた会計監査の結果を大橋監事から、関係書類が適正に処理されていることが報告された。

案件三 令和二年度の事業計画(案)、山行は春・秋の二回。春の山行は白神山地の二ツ森を予定。公益的事業として、太平山山開きに協力、太平山歩道整備等。会報の発行は三回を予定。支部だよりについては随時とし、会員からの投稿があれば発行する。東北・北海道地区集会(青森支部)、支部事務局合議、年次晩餐会等への参加。県内各山岳団体との交流等。

案件四 支部の収入は、支部会員の年会費と本会からの補助金である。

令和二年度予算(案)の収入については会員の減少等により減となる。年会費の払い込み手数料は、平成三十一年度(令和元年度)までは、支部会計で負担していたが、平成三十一年四月から、払い込み手数料が大幅増に改訂され、それだけでなく、支部に通知される払受通知票が無料から一通百十円となった。そのため支部の歳入が減となる今

年度から、払い込み手数料の負担を委員の皆様をお願いしたい。

案件五 役員改選について

諸般の事情により退任を申し出た方は、堀井副支部長、佐藤博、佐々木長秀、藤田正義の各委員。新にお願いした方は、三浦昭男会員。

堀井弘氏を顧問に推薦。



マスクをつけ、席を離し、窓を開けて換気をしての役員会

その他として、

・佐藤和志副会長から「山の日」記念全国大会を是非、秋田県で開催したいとの要望があった。

主催は県と市町村が主体となることから、誘致が決定すれば支部として協力をしたい。

・本会創立百二十周年記念事業「全国古道調査」について。

秋田支部としては、現在歩道があり、通行可である。◎岩手に通じる「白木峠」、◎青森に通じる「矢立峠」、◎山形に通じる「矢島街道」等を候補としている。会員の平均年齢が七十五才を

超えていることから、廃道になった古道の調査や敷漕ぎは無理であることを本会に伝えている。

・三月十三日、本会からメールで、内閣府公益法人行政室から「新型コロナウイルス感染症への対応について」連絡があった。本会では支部の会合等の自粛をお願いするものではない。各支部の事情にあわせてご判断をさせていただきたいとのこと。

・四月一日、会長名で「大都市圏の皆様へ」本会からメールで通知あり。

本部ルームの利用の場合は、マスク着用、換気、消毒、少人数での利用。登山を含め不要不急の外出は当面の間控える。大都市から遠隔地への感染を広げないよう自粛を要請する。高齢会員に感染させてしまうリスクも理解し、少人数での行動とする。また、クライミングや山スキー等、事故や遭難で医療システムの負荷を高めることの無いように。各支部は支部の表情に合わせて、適切な判断をお願いします。

出席者

- 佐藤和志 鈴木裕子 鎌田倫夫
- 川口廣志 石川祐子 三浦眞六
- 安藤金栄 熊谷光子 後藤浩二
- 柴田 勲 大橋忠雄
- 堀井 弘 佐藤 博

支部設立六十周年記念事業  
御芳志及び負担金追加者

- 一万円追加 山川 博
- 三千円 大船 武彦

秋田支部役員

- 名誉顧問 保坂隆司 進藤 昭
- 顧問 長岩嘉悦
- 顧問 佐々木民秀 今野昌雄
- 顧問 堀井 弘
- 支部長 鈴木裕子
- 副支部長 佐藤和志 鎌田倫夫
- 事務局長 鎌田倫夫兼務
- 会計担当 石川祐子
- 委員 川口廣志 三浦眞六
- 委員 安藤金栄 熊谷光子
- 委員 後藤浩二 三浦昭男
- 監事 柴田 勲 大橋忠雄

奥村清明会員

永年会員に

令和元年度十二月に行われた年次晩餐会で永年会員に推挙されました。  
奥村会員は、昭和四十五年一月入会（No.六八九五）  
平成三十一年一月で五十年間在籍

「」挨拶

支部長 鈴木 裕子

この度は、支部長として二期目を引き受けることに致しました。

昨年は六十周年記念事業があり、委員の皆様には大変ご難儀をかけました。六十周年記念事業に専念してしまい、通常の事務引き継ぎが充分でなかった反省があります。それと会報合本や六十周年記念誌が未完成であることなど、記念事業の決算を終えてから退任しようと思いました。

支部運営は、会員皆様のご協力があるからこそ、であります、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

退任をされた委員の方々には、これまで長きに渡り、委員としてご活躍頂き有難うございました。

新委員の皆様には支部運営の要となつてのご活躍をお願い申し上げます。

総会を開催しての承認ではありませんが、四月からの支部運営は新委員で対応して参りますのでご理解をお願い致します。

この度の新型コロナウイルス感染症拡大阻止のため、総会が中止になったことへの対応が、これで良かったのか、との反省があります。

総会中止という、これまで経験のないことで焦りもあり、書面での賛否に気づかなかつたことを深く反省致しております。会員の皆様には、総会資料と共に、役員会の報告、決算・予算説明書を送付したことで、お許しをお願い申し上げます。

新入会員紹介

高橋 吉一

No.一六六二二

仙北市田沢湖生保内字久保

昭和三十一年八月生

入会 令和二年四月

紹介者 佐藤和志 鈴木裕子

鈴木 加代子

No.一六六二九

仙北市田沢湖生保内字武蔵野

昭和二十六年十一月生

入会 令和二年四月

紹介者 田口善信 鈴木裕子



カタクリの白い花 八塩山  
5月3日 撮影 佐々木民秀

コロナ関連の情報

本会から届いたメールの主なもの  
(会員にはコピーを配布済)

四月八日 本会から「緊急事態宣言」の対応について(要旨)

・ルームの利用禁止。事務局、図書室は五月三十一日まで閉鎖。

・本部に所属する理事会や委員会は、ネット等を利用して会務を遂行する。

・登山を含む不要不急の外出は当面の間控える。外出の際は三密を避ける。

・大都市から医療へのアクセスが制限される遠隔地へ感染を広げないように注意して行動すること。

・遭難事故等を起してしまつた場合、医療システムの負荷を高めてしまうことを想定して、強く自粛をもとめる。

・支部活動においては、地域それぞれの感染状況等を鑑み、それぞれの実情に応じて判断してください。

五月二十七日 本会から「緊急事態宣言全面解除を受けて」山岳四団体からの要請(要旨)

・近距離で、出来るだけ都道府県を跨がない日帰り登山から始める。

・少人数で(パーティは当分五人以内)・充分な登山ルートの下調べ。

・登山届けの提出。家族にも。・登山、クライミングでもソーシャルディスタンスを守る。

・下山後の呑み会等は控える。

○山研から 七月十九日まで閉鎖。

コロナ支部関連の情報

・三月七日  
令和二年度通常総会開催中止の郵送

・四月六日  
青森支部主管・東北北海道地区集會中止

・四月十九日  
秋田県山岳連盟総会中止の情報

・五月五日  
支部山行「二ツ森」中止の郵送

秋田中央地区山岳協議会令和二年度総会、並びに太平山山開き市民登山中止の連絡

・七月九日  
宮崎支部主管・全国支部懇談会中止

○太平山山頂神社及び参籠所を来年六月まで閉鎖

○仁別森林博物館今年度は閉館  
○秋田市仁別植物園七月三日から開園

太平山遭難救助協力を登録

中央地区山岳協議会の太平山遭難救助協力員(令和二・三年度)として次の支部会員を登録。

秋田支部登録者

- 佐々木民秀 鎌田倫夫 安藤金栄
- 柴田勲 今野昌雄 三浦真六
- 堀井弘 鈴木裕子 石川祐子
- 歩仁内昌樹

他団体からの登録者

- 若月寿 佐藤博 大橋忠雄 川口廣志

韓国山岳会慶南支部だよ

佐々木 民 秀

兄弟支部として交流している韓国山岳会慶南支部より、長い間休むことなく毎月定期的に支部報「山」が送られてきております。ハングル文字なので閲覧は控えていたが、最近ではスマホの翻訳アプリを利用して、主なことが理解できるようになりました。(興味のある方にはコピーを差し上げます。ご連絡ください)

慶南支部長は、訪韓の際に通訳をしていただいた日本語教師の孫鎔孝氏が昨年就任。(本年三月教員を退職)



支部長 孫鎔孝氏

会報「山」  
「支部長庚子年新年あいさつ」から

また、韓国山岳会旧同友会の李載洪氏から、コロナの状況や秋田の大雨お見舞いの電話を頂いた。情報は世界共通らしい。氏は長い間の腰痛で登山活動は中止にしている。

本会通常総会開催

令和二年度通常総会は、六月二十日午後二時から、東京四ツ谷・主婦会館プラザエフで開催。

本年は、新型コロナウイルス感染拡大阻止ため、県境を超えての往来自粛等があり、理事、監事、議事録署名人などの少人数で開催された。

〔山〕七月号 第九〇二号参照  
秋田支部は欠席

会員数情報 令和元年度末

◎会員数 四六一八名

名誉会員 七名

永年会員 四三九名

終身会員 二七名

通常会員 三八七五名

青年会員 五九名

家族会員 一三三名

団体会員 七八名

◎準会員 二六四名

秋田支部会員数 四十九名

(令和二年四月一日現在)

会員の動静

◎退会 鈴木要三(令和二年三月)

六十周年記念誌並びに  
合本第三巻完成

六十周年記念誌と会報合本第三巻が出来上がり、配布・贈呈致しました。

配布

支部会員、東北北海道支部、静岡支部、本会長、支部事業委員会  
本会図書室

贈呈

国立国会図書館、県内主な図書館  
韓国山岳会慶南支部と李洪載氏  
中華民国山岳協会と林照雄氏  
秋田県山岳連盟会長

秋田支部自然保護委員

堀井顧問の活動報告

◎令和元年度ボランティア活動の一部を紹介

- 五月二十六日  
自然学習センター主催の太平山前岳トレッキング 一般参加者二十名
- 九月八日 八幡平自然観察会 一般参加者八十五名
- 十月二十四日  
市立桜中学生在に植物園の自然観察と登山知識をレクチャー 参加者十名
- 五月から九月末まで  
太平山自然学習センター、秋田市仁別植物園、仁別森林博物館等で、来館者への説明や、森の案内等説明ボランティア多数回

- ◎令和二年度  
○四月十九日 岩谷山山頂に標柱設置
- 五月二十四日 太平山二手ノ又登山口ベンチにペンキ補修。



・4月19日  
岩谷山山頂に標柱設置



・太平山旭又コースの七曲に取り付ける予定の標識

・毎年五月から九月まで行われている太平山自然学習センター主催の小学生参加予定の太平山前岳登山や奥岳登山自然観察会等はコロナウイルス感染拡大阻止のため中止。

※会員で地域の自然観察会や地域の山行や行事に協力している方は事務局までお知らせください。支部の公益的事業として本会に報告します。

山行について

支部長 鈴木裕子

緊急事態宣言解除後の六月に入ってから、少しずつ、支部事務局に登山届けが来るようになり、個人山行や有志山行を側聞することは嬉しい。

届け出のあった山行は、姫神山や神宮寺岳、桑の木台湿原、八塩山、鳥海山(七高山)、貝吹岳や笹森山、八幡平や源太森、森吉山、赤倉岳から馬場目岳、岩手県の東根山、山形県の湯の沢、青森県の久渡寺山、高倉森など。山岳四団体の要請もあり、これまでのように大勢の参加者での支部山行は当分の間は無理かもしれないので、個人山行、有志山行での活動をお願いします。コロナウイルスの一日も早い終息宣言が待たれます。



八重咲チングルマ 森吉山  
6月21日 撮影 堀井弘

訂正のお願い

会報一五号  
四頁三段 河口湖を  
四頁四段 役員会の日  
十月十八日を 一月十八日  
に訂正

会務報告

◎第五回役員会 三月四日午後一時から秋田市泉コミセン会議室で開催  
・役員改選について  
・コロナウイルス感染拡大の影響により、総会を中止とすることを決定。

出席者 鈴木裕子 堀井弘 鎌田倫夫 石川祐子 佐藤博 川口廣志 三浦真六 安藤金栄 熊谷光子 後藤浩二

◎会計監査 四月一日午前十時から秋田市アルヴェ市民交流室で開催。  
・平成三十一年度(令和元年度)会計決算の監査を実施

出席者 柴田勲 大橋忠雄 石川祐子 鈴木裕子 鎌田倫夫

◎令和二年度第一役員会 四月七日午後一時から秋田市泉コミセン会議室において開催。  
(詳細は一頁に記載)

◎事務局会議・事務報告

二月二十日 午後一時から鈴木宅  
令和二年度通常総会のご案内、山行案内等を発送。

三月七日  
令和二年度通常総会中止連絡発送  
四月十日

・総会資料・役員会報告等の発送  
五月五日 ・支部山行中止連絡を発送  
七月一日 午後一時から鈴木宅  
・六十周年記念誌、会報合本第三巻を発送

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫 石川祐子